

## 取扱説明書

ピピットプラス

PiPit<sup>+</sup>ハンディライコン

品番：NK23091

## もくじ

安全上のご注意	2
使用上のご注意	2
はじめに	2
システム構成	3
制御内容について	3
各部の名前とはたらき	4~5
設定手順と設定内容	6
ペアリング設定のしかた	7~8
ペアリング設定の確認	9
明るさ目標設定	10~11
運転内容設定	11~13
デマンド設定	14
工場出荷状態に戻す	15
高天井モード設定	16~17
照明器具を直接操作するしかた	18
よくある質問	19~22
赤外線受光カバーの使い方	22
お手入れについて	23
困ったとき	23~24

PiPit+セパA  
天井付  
直付

## お客様へ

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- 適合商品は PiPit<sup>+</sup>ハンディライコンの承認図でご確認ください。

## 工事店様へ

■ 本書に、PiPit+セパレートセルコンAタイプの設定手順もあわせて記載しております。  
施工後、本書を必ずお客様へお渡しください。

◎ 上手に使うって上手に節電

**警告**



■ 乾電池をショートさせたり、火中に投入しない  
発熱・破裂によるけがの原因となります。

■ 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜたり指定以外の乾電池を使用しない  
液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがの原因となります。

万一、液もれしたときは・・・● 液が手や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。  
● 目に入ったときは、失明のおそれがあります。目をこすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。

使用上のご注意

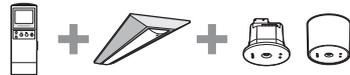
- ・分解したり、修理、改造をしない。また、落としたり、水をかけたりしない。故障や破損の原因になります。
- ・PiPit+ハンディライコンを長時間使用しない場合や、乾電池を使い切ったときは、乾電池をPiPit+ハンディライコンから取り出す。長期間放置すると、電池が液もれを起こす場合があります。
- ・PiPit+ハンディライコンの液晶表示がうすくなり操作がしにくくなったときは、お早めに乾電池を交換してください。
- ・照明器具とPiPit+ハンディライコンとの間に信号をさえぎるものがあると動作しません。
- ・赤外線送信部が極端にランプに近すぎる場合や、太陽光などの赤外線を多く含む光が照明器具受信部に直接照射する場合、または周囲温度が低い場合は、動作しにくいことがあります。
- ・PiPit+セパレートセルコンとペアリングされた照明器具は、PiPit+ハンディライコンで直接調光操作はできません。
- ・照明器具との無線信号が遮断された場合、照明器具は状態を保持します。ただし、照明器具が消灯状態の場合のみ遮断されてから60秒後に100%点灯します。（無線信号が混雑すると消灯状態の器具が点灯する可能性があります）
- ・調光レベルは照明器具の調光範囲内で設定できます。（範囲外では照明器具の調光下限で点灯します）
- ・複数のPiPit+セパAを同時に一斉操作すると無線信号が混雑し、照明器具の動作にバラつきが生じることがあります。
- ・周囲温度が高い場合、使用時間が長い場合などは寿命が短くなります。
- ・人命ならびに社会的に重大な影響を与えることが予想される用途には使用しないでください。

はじめに

- PiPit+ハンディライコンと組み合わせる商品によって、設定のしかたが異なります。お使いの商品に応じて、設定・操作を行ってください。

組み合わせ商品区分

■ PiPit 調光シリーズLED器具とPiPit+セパレートセルコンと組み合わせて使用する場合



本書の「各部の名前とはたらき」をご確認後、P.6の手順に従って設定してください。

（以下本書ではPiPit+セパレートセルコンを「PiPit+セパA」と表記します）  
※高天井（6～15m）使用時はP.16を先にご確認ください。

■ PiPit 調光シリーズLED器具とその他のコントローラを組み合わせて使用する場合



各種コントローラの設定・操作方法については、各商品に付属の説明書を参照してください。

■ PiPit 調光シリーズLED器具を直接操作する場合



本書の「各部の名前とはたらき」をご確認後、P.16の「明るさ設定」を設定してください。

※ペアリング設定されている場合は本器で直接操作することはできません。

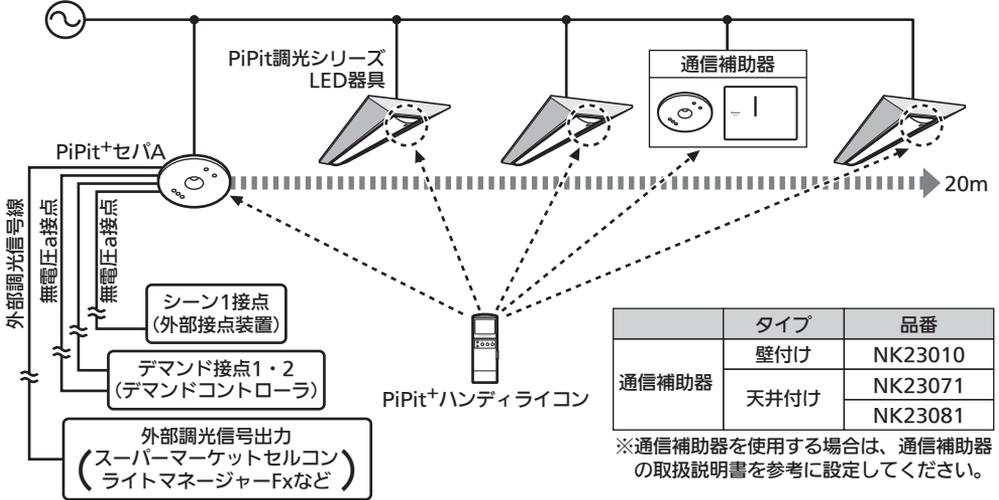
※その他の組み合わせ

■ 通信補助、無線/PWM信号変換インターフェースと組み合わせて使用する場合

設定・操作方法は、各商品に付属の説明書を参照してください。

# システム構成

PiPit+セバAとPiPit調光シリーズLED器具およびPiPit+ハンディライコンでシステム構成は完成します。

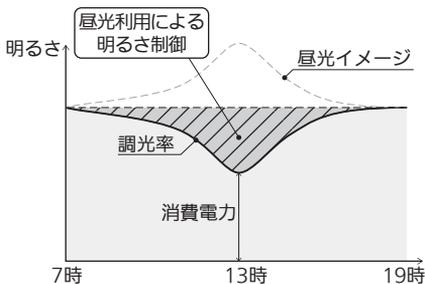
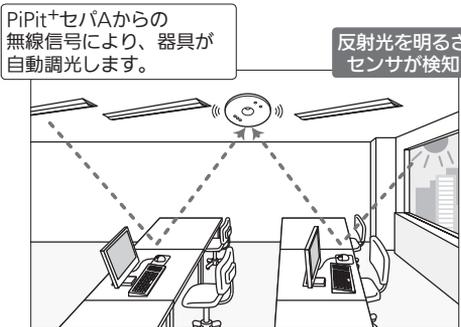


# 制御内容について

PiPit+セバAは、以下のどちらかの制御を行い照明器具を無線信号で操作します。

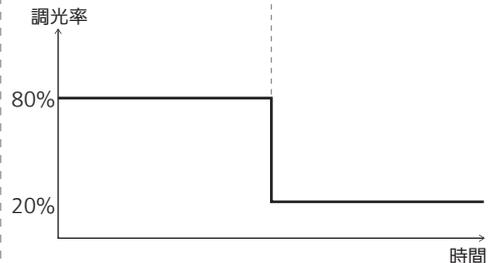
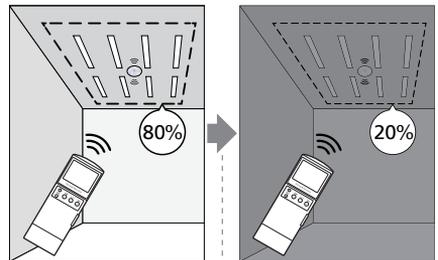
## ■ 明るさ制御

周囲の明るさを検出して明るさを一定に保つように自動で照明器具を制御します。



## ■ 一定調光制御

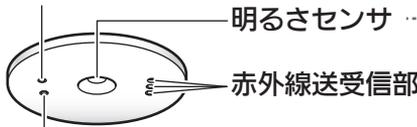
ハンディライコン操作や外部調光信号より入力される調光率で照明器具を制御します。



# 各部の名前とはたらき

## ■ PiPit+セパAについて

LED緑  
(運転内容を示す)

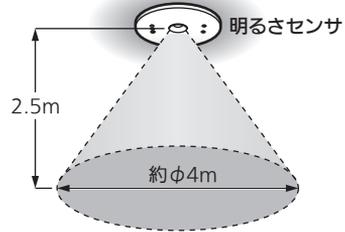


明るさセンサ

赤外線送受信部

LED赤  
(設定状態などを示す)

### ●明るさセンサの検知範囲

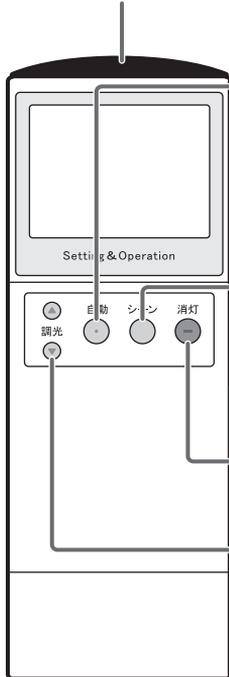


高さ2.5mで約φ4mを重点的に検知しています。

## ■ PiPit+ハンディライコンについて

PiPit+ハンディライコンを用いて運転切替えや設定することができます。  
必ずPiPit+セパAに赤外線受信部を向けて操作してください。

赤外線送受信部



### 自動ボタン

設定された内容にしたがい通常運転を行います。

### シーンボタン

設定された内容にしたがいシーン1運転を行います。  
※シーン2、3は使用しません。

### 消灯ボタン

照明器具を消灯します。

### 手動調光ボタン

照明器具の明るさを手動で調光します。

### 通常運転

「明るさ制御」

または

「一定調光制御」

(どちらを行うか設定可能)

### シーン1運転

「明るさ制御」

または

「一定調光制御」

(どちらを行うか設定可能)

### 手動調光運転

「一定調光制御」

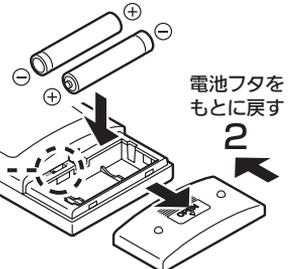
### <電池の入れ方>

1 電池フタをはずし、乾電池を入れる

電池の⊕⊖は、正しく入れてください。

AN A

Aに設定してください。(出荷状態はAになっています。)



### 同梱品

- 専用ホルダ
- 専用ホルダ 取付け用木ねじ (2本)
- 単4形アルカリ乾電池 (2個)
- 赤外線遮光カバー

# 各部の名前とはたらき (前ページからのつづき)

**項目ボタン**  
設定の時に使用します。

**数値ボタン**  
設定の時に使用します。

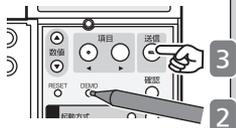
※フタを開けると、ハンディライコンの液晶表示部の内容がクリアされます。

**RESET キー**  
ペン先等で押すと、ハンディライコンが工場出荷状態になります。(コントローラの設定はそのままです)

**DEMO キー**  
自動運転時の照明器具の明るさが、周囲の明るさに連動してすぐに変ります。(通常は、時間をかけて使用状態でもわかりにくいように明るさが変わります)

## 1 自動運転にしておく

## 2 『DEMO』キーをペン先で押す



## 3 コントローラに向け『送信ボタン』を押す



●「DEMO」再生を解除する場合はフタを閉じ『自動ボタン』を押します。

**送信ボタン**  
設定内容をコントローラに送ります。

**確認ボタン**  
運転中の動作状態を確認します。設定した各内容を確認します。

**起動方式ボタン**

**明るさ再現ボタン**  
**明るさ記憶ボタン**

**オプションボタン**  
**カスタムファンクションボタン**

**LED 表示部 (緑色)**

●フタを開けて画面になにも表示されていない状態で「確認ボタン」を押すと PiPit+セパレートセルコンの状態を確認することができます。

**シーン 1**  
シーン 1 運転中であることを示します。  
※シーン 2、3 は使用しません。

**通常**  
自動運転中であることを示します。

**明るさ**  
カスタムファンクションによる明るさセンサの応用機能が起動していることを示します。

**状態確認**  
運転状態の確認画面であることを示します。

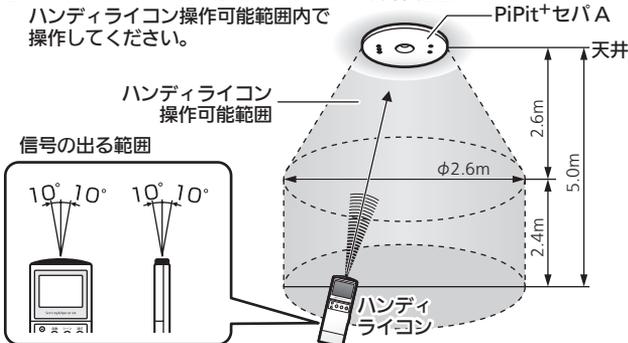
**手動再現中**  
手動操作中であることを示します。



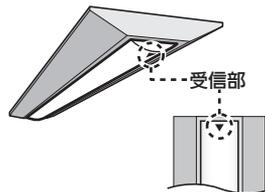
現在の調光率を示します。

## ● PiPit+セパAへのハンディライコン操作範囲

ハンディライコン操作可能範囲内で操作してください。



## ● 照明器具へのハンディライコン操作範囲



照明器具を下から見た図

※ 赤外線到達距離は照明器具により異なります。照明器具の設置高さの仕様をご確認ください。

※ 高天井 (6~15m) で使用する場合はP.16を参照してください。

# 設定手順と設定内容

必ず以下の手順で設定してください。

通信補助器がある場合

通信補助器がない場合

通信補助器の取扱説明書を参考にPiPit+セバAと通信補助器の設定を行ってください。

ベアリング設定

PiPit+セバAと照明器具のベアリングを行います。ベアリングされた照明器具がPiPit+セバAの制御対象となります。設定方法は「かんたん設定」と「确实設定」があり、どちらかの設定方法でベアリングを行ってください。

ベアリング設定の確認

PiPit+セバAと照明器具が正しくベアリングできたか確認を行ってください。

## 明るさ目標設定

PiPit+セバAが明るさ制御を行う場合の明るさ目標値を設定します。設定方法は「かんたん設定」「お好み設定」があり、いずれかの設定方法で明るさ目標値を設定してください。

かんたん設定

かんたんに運用時の明るさを設定できます。ただし、お好みの明るさには設定できません。

- ※ 調光率81%で点灯させたときの明るさを記憶します。
- ※ 通常運転とシーン1運転の両方の明るさ目標値が記憶されます。

お好み設定

お好みの明るさにて運用時の明るさを設定できます。照度値だけではなく調光率でも明るさの指定は可能です。

- 例1：700 lxの明るさにて設定
- 例2：調光率70%の明るさにて設定

- ※ 運用時の明るさを調光率で設定する場合、P10「お好み設定」の手順4にて調光率を指定してください。
- ※ 通常運転とシーン1運転の両方の明るさ目標値が記憶されます。

以下、必要に応じて設定してください。

## 運転内容設定

通常運転とシーン1運転の運転について、「明るさ制御」または「一定調光制御」どちらを行うか設定します。初期値は以下のように設定されています。変更する場合は設定してください。

通常運転（明るさセンサON）

明るさ制御：上限：100% 下限：25%

シーン1運転（明るさセンサOFF）

一定調光制御：調光率100%

## デマンド設定

PiPit+セバAのデマンド接点1・2にデマンドコントローラを接続する場合、デマンド設定を行ってください。デマンド設定では「削減率」と「デマンドロック」を設定できます。初期値は以下のように設定されています。変更する場合は設定を行ってください。デマンド接点1・2の両方がONになった場合、デマンド接点2の削減率にて運転します。

デマンド接点1

削減率：50%

デマンド接点2

削減率：70%

デマンドロック

OFF

# ペアリング設定のしかた

ペアリング設定とは、PiPit+セバAがどの照明器具を制御するのか設定する作業のことです。  
本器では「かんたん設定」と「確実設定」の2つの設定方法がありますのでどちらかの方法で必ず実施してください。

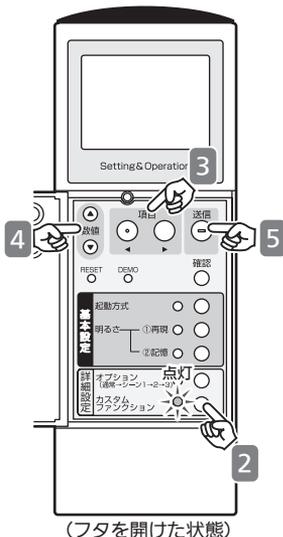
**注** ペアリング設定せずに本器を操作しても、照明器具を制御することはできません。  
※通信補助器がある場合は、先に通信補助器の設定を行ってください。

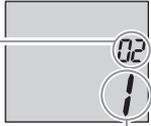
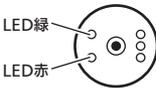
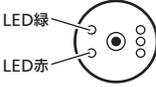
## かんたん設定

※近くで同時に同じ作業を行っていたり、無線が混信していたりすると正しく設定できない可能性があります。  
その場合は一度照明器具を工場出荷状態に戻し「確実設定」で再設定してください。

※PiPit+セバAと照明器具の電源が同時に入る場合（電源系統が同じ場合）、確実設定をお勧めいたします。  
ただし、電源OFFの状態から電源ONして1分以内に手順2～5を行うとペアリングできます。  
ペアリング完了後は手順8を実施してください。

PiPit+ハンディライコン

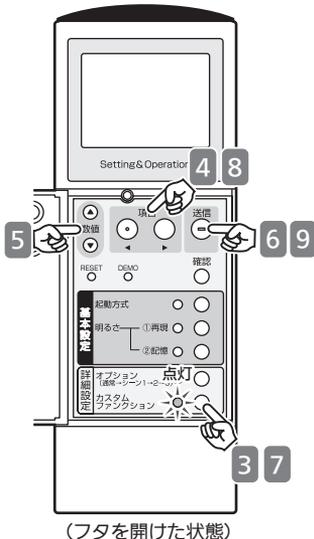


- 1 PiPit+セバAに電源を入れる
- 2 PiPit+ハンディライコンのフタを開け『カスタムファンクションボタン』を押す
- 3 『項目ボタン』を押し「02」を選択する 
- 4 『数値ボタン』を押し「1」を選択する
- 5 PiPit+セバAに向け『送信ボタン』を押しペアリング設定状態にする  
 ペアリング設定状態中は、LED赤・緑が点滅します。  
※ペアリング設定状態は10分経過すると自動で通常状態に戻ります。
- 6 照明器具の電源を60秒以上OFFにする
- 7 照明器具の電源をONにする（ペアリング）  
ペアリングが成功すると、照明器具は調光下限で点灯します。  
※照明器具が工場出荷状態の場合、電源ON後60秒間、PiPit+セバAからのペアリング信号を受信します。
- 8 PiPit+ハンディライコンのフタを閉じ、PiPit+セバAに向け『自動ボタン』を押し、ペアリング設定を終了する  
 PiPit専用コントローラのLED赤・緑点滅が終了します。

# ペアリング設定のしかた (前ページからのつづき)

## 確定設定

PiPit+ハンディライコン



- 1 PiPit+セパAと照明器具に電源を入れる
- 2 PiPit+ハンディライコンで照明器具を工場出荷状態にする  
P15を参考に照明器具を工場出荷状態に戻してください。  
※照明器具が工場出荷状態の場合は不要です。
- 3 PiPit+ハンディライコンのフタを開け『カスタムファンクションボタン』を押す
- 4 『項目ボタン』を押し「02」を選択する  

- 5 『数値ボタン』を押し「1」を選択する  

- 6 PiPit+セパAに向け『送信ボタン』を押しペアリング設定状態にする  


LED緑  
LED赤

ペアリング設定状態中は、LED赤・緑が点滅します。  
※ペアリング設定状態は10分経過すると自動で通常状態に戻ります。
- 7 フタを開けた状態で『カスタムファンクションボタン』を押す
- 8 『項目ボタン』を押し「20」を選択する  

- 9 PiPit+ハンディライコンを照明器具に向け『送信ボタン』押しペアリングする  
ペアリングが成功すると、照明器具は調光下限で点灯します。  
※ペアリングする全ての照明器具に対して、この操作を行ってください。  
※PiPit+セパAのペアリング設定状態は、10分経過すると自動で解除されます。時間内で対象の照明器具に対しペアリングできなかった場合は、再度3～9を実施してください。
- 10 PiPit+ハンディライコンのフタを閉じ、PiPit+セパAに向け『自動ボタン』を押し、ペアリング設定を終了する  

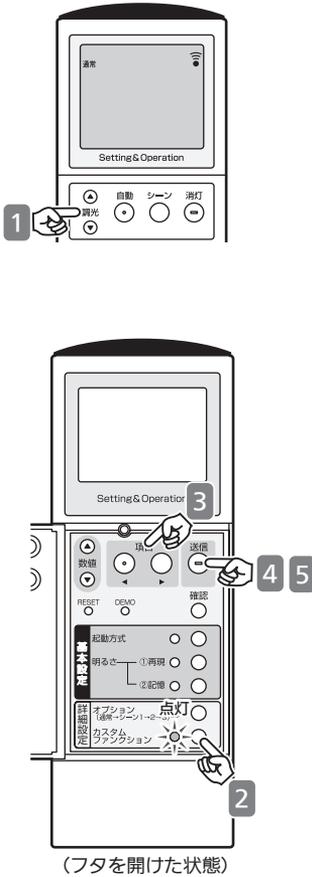

LED緑  
LED赤

PiPit専用コントローラのLED赤・緑点滅が終了します。

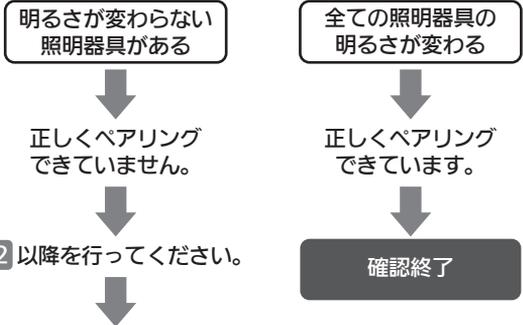
# ペアリング設定の確認

PiPit+セパAと照明器具が正しくペアリングされたかを以下の手順で確認してください。  
 ※通信補助器の電源も入れた状態で確認を行ってください。

PiPit+ハンディライコン



1 PiPit+セパA向け『調光ボタン』を押し、ペアリングしたい全ての照明器具の明るさが変わるか確認する



2 PiPit+ハンディライコンのフタを開け『カスタムファンクションボタン』を押す

3 『項目ボタン』を押し「18」を選択する



4 1で明るさが変わらなかった照明器具に向け『送信ボタン』を押す

5 PiPit+セパA向け 3の画面のまま『送信ボタン』を押す

## 照明器具の反応は？

反応しない

3秒間明暗を繰り返す

電波が照明器具に届いていません。次のどちらかの対応をした後、再度ペアリング設定を行ってください。

- ① 遮蔽物やPiPit+セパA、通信補助器の位置を変更し、照明器具の見通しを確保する。
- ② 通信補助器をPiPit+セパAと照明器具の見通しの良い位置に追加する。

電波通信は問題ありませんが、照明器具とのペアリング設定が正常にできていません。一度照明器具を工場出荷状態に戻し「确实設定」で再度ペアリング設定を行ってください。

# 明るさ目標設定

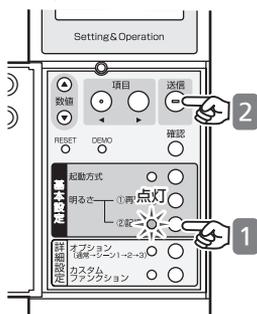
外光などの明るさを検出して照明器具を自動で制御する「明るさ制御」を行う場合、明るさ目標値を設定してください。設定方法は「かんたん設定」「お好み設定」があり、いずれかの方法で設定を行ってください。（設定時に照度計を用いる場合、「お好み設定」で設定を行ってください。）

正しく明るさ設定をするために、次の4点のことがらを守ってください。

1. 使用状態と同一の反射環境とするため、すべての仕器を設置後、1台ずつ設定を行ってください。
2. 外光の影響のない夜間などに設定を行ってください。
3. センサが周辺エリアの光の影響を受ける場合は、周辺エリアの照明を点灯させるなど、使用時と同じ状態で設定を行ってください。
4. ペアリングしている全ての照明器具の電源が入っていることを確認し設定を行ってください。

## かんたん設定

PiPit+ハンディライコン



(フタを開けた状態)

- 1 PiPit+ハンディライコンのフタを開け『記憶ボタン』を押す
- 2 PiPit+セパAに向け『送信ボタン』を押す

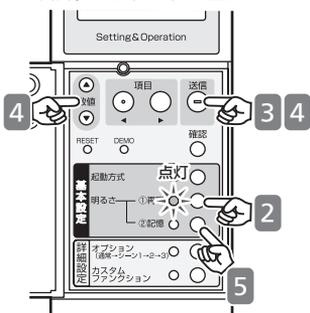


LED赤が点滅し、  
ピッ・ピッ・ピッ・ピッ・ピッ・ピッピーと鳴り、  
LED赤が消灯すると設定が完了します。

※照明器具は81%で点灯し、その状態の明るさを目標値として記憶します。

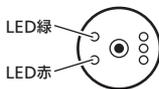
## お好み設定

PiPit+ハンディライコン



(フタを開けた状態)

- 1 照度計をPiPit+セパAの直下に設置する
- 2 PiPit+ハンディライコンのフタを開け『再現ボタン』を押す
- 3 PiPit+セパAに向け『送信ボタン』を押した後、照度を測定する



LED赤が点滅し、照明器具が調光率70%で点灯します。

- 4 照度計の値が、運用したい照度値となるように以下の①、②の操作を繰り返す。

- ① 『数値ボタン』で調光率を変更する

※運用したい照度値より照度計の値が低い場合、70%より大きな調光率となるように変更してください。

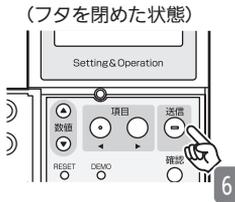


- ② PiPit+セパAに向け『送信ボタン』を押す

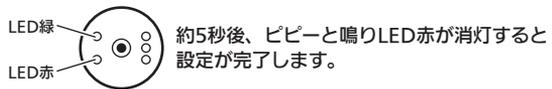
※「ピッ」と鳴り、照明器具が指定の調光率にて点灯します。

- 5 『記憶ボタン』を押す

## 明るさ目標設定 (前ページからのつづき)



6 PiPit+セバAに向け『送信ボタン』を押す



## 運転内容設定

通常運転とシーン1運転について「明るさ制御」または「一定調光制御」どちらを行うかを設定することができます。

### 通常運転を設定する場合の手順 (詳細P12)

運転内容を明るさ制御にする

運転内容を一定調光制御にする

明るさ制御の調光範囲を設定する

一定調光する調光率を設定する

### シーン1運転を設定する場合の手順 (詳細P13)

運転内容を明るさ制御にする

運転内容を一定調光制御にする

明るさ目標値の比率を設定する

一定調光する調光率を設定する

明るさ制御の調光範囲を設定する

### 明るさ目標値の比率について

シーン1運転で明るさ制御を行う場合、P10「かんたん設定」または「お好み設定」で設定した明るさ目標値を基準とし、その基準に対して目標値を比率で設定することができます。

例：P10お好み設定⇒調光率80%を再現し記憶

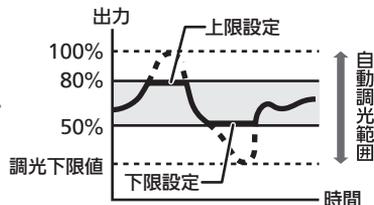
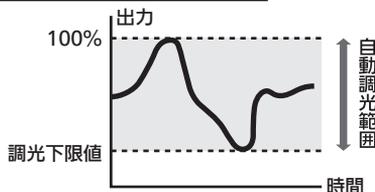
：P13比率⇒90%と設定すると、「調光率72%相当の明るさを目標値として動作する」

### 明るさ制御の調光範囲について

照明器具の出力範囲制限することができます。

例えば、昼光で明るくなくても照明器具の出力を確保することで手暗がりの防止にご使用いただけます。明るさの上限と下限をそれぞれ設定できます。

工場出荷状態 上限値：100%  
下限値：5%



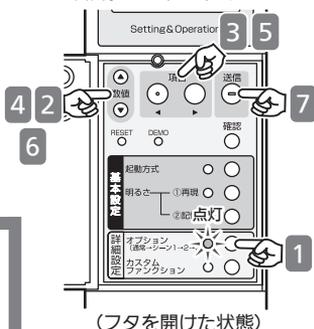
# 運転内容設定 (前ページからのつづき)

## 通常運転設定

- 1 PiPit+ハンディライコンのフタを開け『オプションボタン』を1回押す  
※オプションのLED表示部が点灯します。



PiPit+ハンディライコン



(フタを開けた状態)

### 明るさ制御に設定する場合

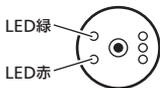
- 2 『数値ボタン』を押し「ON」を選択する
- 3 『項目ボタン○』を押し「上限」を選択する  
※上限値を設定しない場合は、5に進む。  
※前の画面に戻るときは、『項目ボタン○』を押ししてください。
- 4 『数値ボタン』を押し上限値を設定する  
※押すごとに0~100%の間で5%刻みで増減します。  
上限値を80%にする場合
- 5 『項目ボタン○』を押し「下限」を選択する  
※下限値を設定しない場合は、7に進む。  
※前の画面に戻るときは、『項目ボタン○』を押ししてください。
- 6 『数値ボタン』を押し下限値を設定する  
※押すごとに0~100%の間で5%刻みで増減します。  
下限値を50%にする場合

### 一定調光制御に設定する場合

- 2 『数値ボタン』を押し「OFF」を選択する
- 3 『項目ボタン○』を押し「調光率」を選択する
- 4 『数値ボタン』を押し一定調光する調光率を設定する  
※押すごとに0~100%の間で5%刻みで増減します。  
調光率を80%にする場合

各設定内容を一回でまとめて送信します。

- 7 PiPit+セパA向け『送信ボタン』を押す



2秒後、ピービと鳴り設定が完了します。



明るさセンサ「ON」で下限設定50%の場合

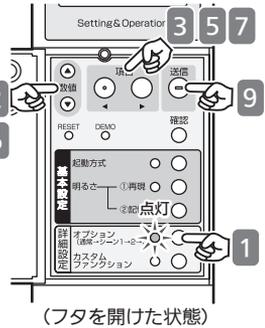
# 運転内容設定 (前ページからのつづき)

## シーン1設定

- 1 PiPit+ハンディライコンのフタを開け『オプションボタン』を2回押す  
※オプションのLED表示部が点灯します。



PiPit+ハンディライコン



### 明るさ制御に設定する場合

- 2 『数値ボタン』を押し「ON」を選択する



- 3 『項目ボタン○』を押し「明るさ」を選択する  
※明るさ比率を設定しない場合は、5に進む。



- 4 『数値ボタン』を押し、自動運転時に対する明るさの比率を設定する  
※押すごとに30~100%の間で10%刻みで増減します。



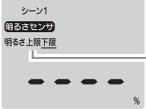
- 5 『項目ボタン○』を押し「上限」を選択する  
※上限値を設定しない場合は、7に進む。



- 6 『数値ボタン』を押し上限値を設定する  
※押すごとに0~100%の間で5%刻みで増減します。



- 7 『項目ボタン○』を押し「下限」を選択する  
※下限値を設定しない場合は、9に進む。



- 8 『数値ボタン』を押し下限値を設定する  
※押すごとに0~100%の間で5%刻みで増減します。



### 一定調光制御に設定する場合

- 2 『数値ボタン』を押し「OFF」を選択する



- 3 『項目ボタン○』を押し「調光率」を選択する



- 4 『数値ボタン』を押し一定調光する調光率を設定する

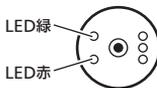


※押すごとに0~100%の間で5%刻みで増減します。

調光率を80%にする場合

各設定内容を一回でまとめて送信します。

- 9 PiPit+セパAI向け『送信ボタン』を押す



2秒後、ピービーと鳴り設定が完了します。

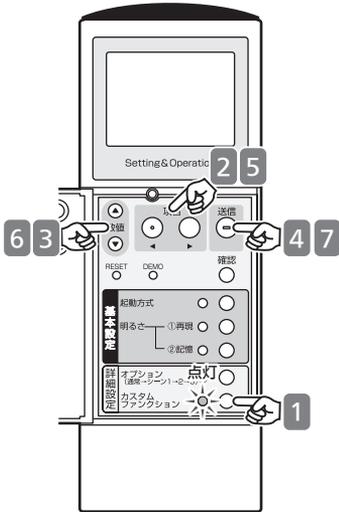


明るさセンサ「ON」で下限設定50%の場合

# デマンド設定

デマンド設定とは、PiPit+セバAのデマンド接点1または接点2がONになった場合の削減率を設定します。(デマンド削減率)  
 更に、デマンド接点がONになった場合にハンディライコンからの調光操作ができるか否かを設定することができます。  
 (デマンドロック)

PiPit+ハンディライコン



(フタを開けた状態)

1 PiPit+ハンディライコンのフタを開け  
 『カスタムファンクションボタン』を押す

2 『項目ボタン』を押し  
 「22」を選択する  
 デマンド1を設定する場合「22」にしてください。  
 (デマンド2を設定する場合は、「23」にしてください)



3 『数値ボタン』を押し  
 削減率を入力してください。  
 (デマンド削減率)

※明るさ制御で動作している場合は、「明るさ目標値×削減率」で動作します。

※一定調光制御で動作している場合は、「調光率×削減率」で動作します。

画面	内容
001	10%削減
002	20%削減
003	30%削減
004	40%削減
005	50%削減
006	60%削減
007	70%削減

4 PiPit+セバA向け『送信ボタン』を押す

5 『項目ボタン』を押し  
 「17」を選択する



6 『数値ボタン』を押し、デマンドロックを  
 「ON」にするか「OFF」にするか選択する

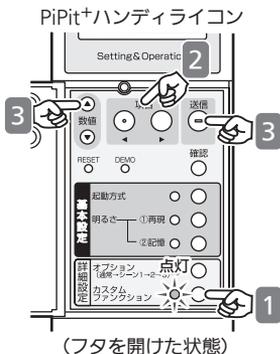
※「ON」に設定するとデマンド接点がONになった場合、ハンディライコンからの調光操作や設定などができなくなります。

7 PiPit+セバA向け『送信ボタン』を押す

## 工場出荷状態に戻す

PiPit+セパAと照明器具を工場出荷状態に戻す（リセットする）場合、以下のように設定してください。

### PiPit+セパAを工場出荷状態に戻す

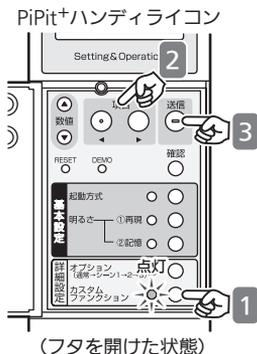


1 PiPit+ハンディライコンのフタを開け  
『カスタムファンクションボタン』を押す

2 『項目ボタン』を押し  
「25」を選択する

3 PiPit+セパA向け『数値ボタン』を押しながら  
『送信ボタン』を押す

### 照明器具を工場出荷状態に戻す



1 PiPit+ハンディライコンのフタを開け  
『カスタムファンクションボタン』を押す

2 『項目ボタン』を押し  
「12」を選択する

3 照明器具向け『送信ボタン』を押す

ペアリング解除され、工場出荷状態に戻ります。

※工場出荷状態になった照明器具は、いったん下限点灯した後に  
100%点灯します。

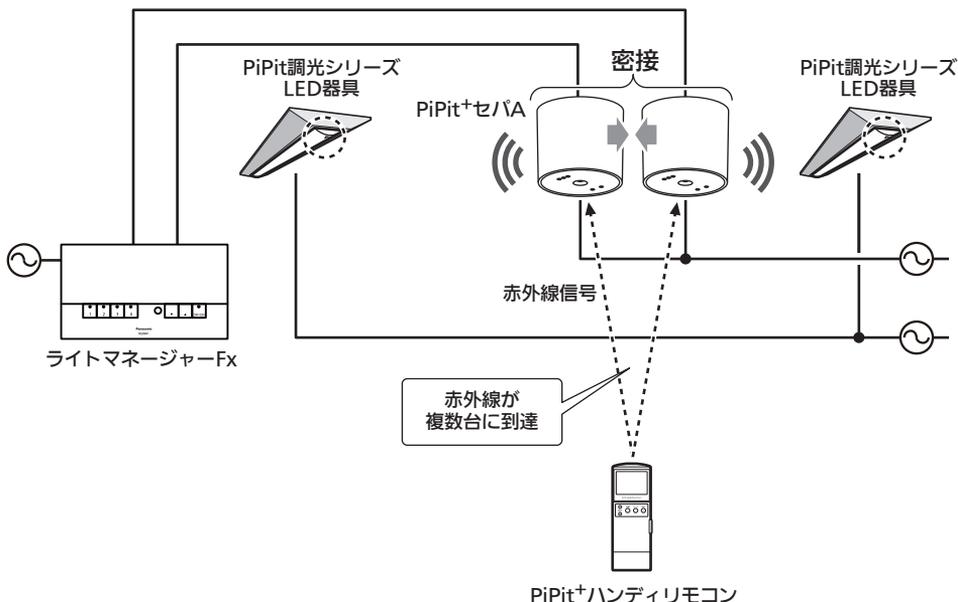
高天井（6～15m）でPiPit+セパAを使用する場合、ハンディリモコンはPiPit+セパAの真下（約1m以内）で使用してください。

## 高天井モード設定が必要な場合

※PiPit+セパAを密接設置していない場合は、以下の手順は不要です。

PiPit+セパAを密接設置した場合、赤外線信号が複数台に到達するため、1台のPiPit+セパAのみに赤外線信号を送信することができず、ペアリング設定などのハンディリモコン操作に支障がでます。

複数のPiPit+セパAを密接して設置、かつライトマネージャーFxからPiPit+セパAに調光信号線を接続している場合は、ペアリング設定の前にそれらのPiPit+セパAを「高天井モード」に設定してください。



## ペアリング設定時のライトマネージャーFxの操作

高天井モード設定したPiPit+セパAにPiPit+ハンディリモコンで操作する場合は、操作対象のPiPit+セパAを接続しているライトマネージャーFxの回路を「センサーモード」（対象以外のPiPit+セパAは「センサーモード以外」）にしてください。

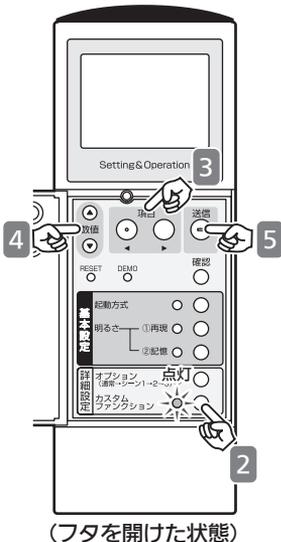
かんたん設定または確実に設定によるペアリング設定する場合も、事前にこの設定が必要です。

注）複数のPiPit+セパAを密接設置する場合は、それぞれを個別の回路に接続してください。同一の回路で調光信号を「送り」で接続した場合には、PiPit+セパAを個別にペアリング設定ができない可能性があります。

## 高天井モード設定のしかた

ベアリング設定の前に、密接設置したPiPit+セパ全てに対して設定してください。  
1回の手順で複数のPiPit+セパをまとめて設定しても問題はありません。

### PiPit+ハンディライコン



- 1 PiPit+セパAに電源を入れる
- 2 PiPit+ハンディライコンのフタを開け『カスタムファンクションボタン』を押す
- 3 『項目ボタン』を押し「11」を選択する
- 4 『数値ボタン』を押し「ON」を選択する
- 5 PiPit+セパAに向け『送信ボタン』を押す

※高天井モード設定を解除する場合は、上記手順4で「OFF」を選択してください。

## 高天井モード設定時のセパA動作

高天井モード設定したPiPit+セパAは、ライトマネージャーFxがセンサーモードになっている時、PiPit+ハンディライコンの全ての操作を受信します。

ライトマネージャーFxがセンサーモード以外になっている時、PiPit+ハンディライコンのほとんどの操作を受信しません。一部の操作（下表）のみ受信します。

センサーモード時に受信するハンディリモコン操作
高天井モード設定
自動ボタン

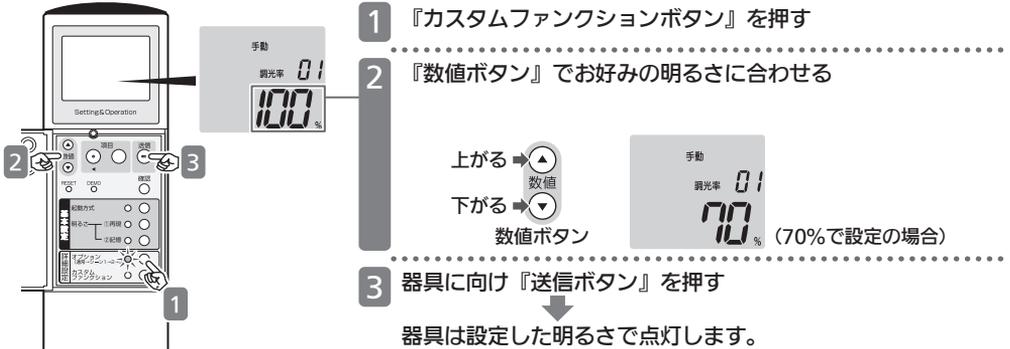
# 照明器具を直接操作するしかた

(注) ハンディライコンと PiPit シリーズ調光器具のみで使用する場合は操作です。  
PiPit+ セバ A との組合せでは不要です。

(ベアリング設定されている場合は直接操作できません、一旦工場出荷状態にしてください。)

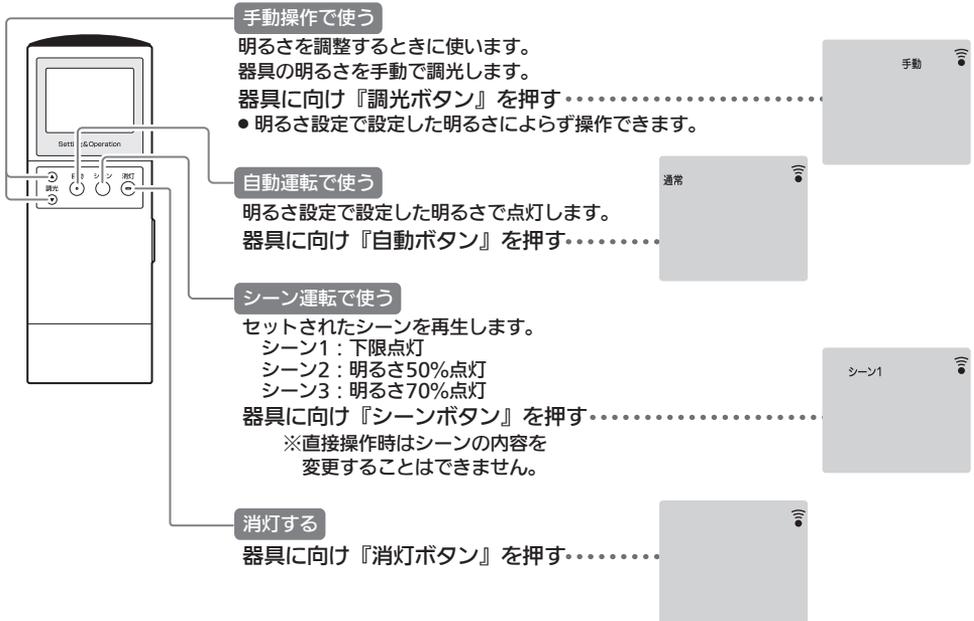
## 明るさ設定 (初期設定) のしかた 必ず設定してください

自動運転で使う時の明るさ (調光率) を設定します。設定後はその明るさを保持します。



## 運転操作のしかた

各操作はあとで押すボタン操作が優先されます。ただし、適合商品や組み合わせるコントローラの種類によっては操作できない場合があります。



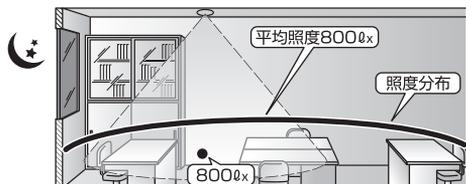


## よくある質問 (前ページからのつづき)

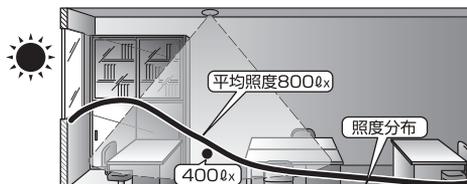
### Q7 照度計で測定したら、設定したはずの照度と違うのですが・・・

- 明るさ制御は検知範囲内の反射光を一様に検知して平均化していますので、設定時と測定時との周囲状況（照度の分布状態）の違いによっては、同じ平均照度（800 lx）でも測定地点（照度計のある地点：図中の●地点）の照度が異なる場合があります。また、調光動作を必要以上に頻繁に繰り返すのを防ぐために、明るさ制御は設定照度に一定の幅（+5%）をもった制御を行っています。したがって設定した照度は、実際の平均照度とは若干異なる場合があるものとご理解ください。

【設定時】

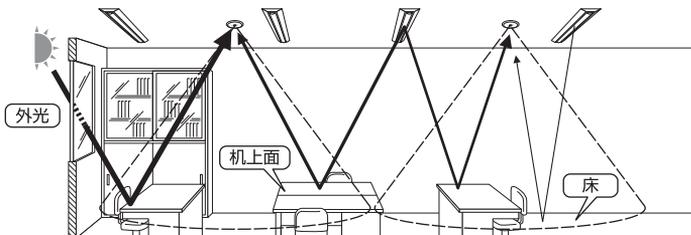


【昼間時】



### Q8 明るさの設定作業はなぜ設置現場ごとにおこなう必要があるのですか？

- 明るさ制御は机上面や床からの反射光を検知する方法を採用しています。設置箇所によって下面からの反射光（反射率）が異なるため、設置場所ごとの調整が必要となります。また、什器の配置で反射率は大きく左右されますので、レイアウト変更など反射率に影響を与える際にも適正な照度を維持するために再設定をお勧めします。



### Q9 外の光で明るくなっているのになかなか変化しません。なぜすぐに変化しないのでしょうか？

- 一般的に人間の瞳孔は人工光の変化には非常に敏感です。従って、人の横切り等の一時的な反射率の変化などを緩和させるために、PiPit+セパA内のCPUで平均化制御を行ってなるべく違和感のない人にやさしい制御を行っているためです。

### Q10 明るさ目標設定をせずに明るさ制御を行ったらどうなりますか？

- 設定面（天井面）照度が約160 lxの明るさになるように動作します。

### Q11 PiPit+セパAをPiPitハンディライコン(NK23041)で操作できますか？

- 右図3つのボタンで操作できます。  
(P7～P17の設定はできません)

点灯ボタン

設定された内容にしたがい通常運転を行います。



消灯ボタン

照明器具を消灯します。

明るさ調整ボタン

器具の明るさを手動で調光します。

## よくある質問 (前ページからのつづき)

### Q12 営業日、季節ごとなど頻繁に明るさ目標値を変更したい場合は、都度明るさ目標設定を行う必要がありますか？

●基本的には、明るさ目標値の変更ごとに設定変更を行ってください。周囲環境により明るさ目標値(目標 lx値)への追従誤差が大きくなりますが、下記の設定方法で後から手軽に明るさ目標値を変更できます。再設定の際、照度計を用いての照度測定は省略できます。

1 PiPit+ハンディライコンのフタを開け  
『カスタムファンクションボタン』を押す  
LED表示部(緑色)が点灯します。

2 PiPit+セバAに向け『送信ボタン』を押す



※100%であること  
とを確認する。



LED緑が点滅し、「ビッ」と鳴ります。

3 照度計を使って照度を測定する

4 『項目ボタン』を押し、  
「04」を選択する



5 『数値ボタン』を押し、照度計の数値を  
表示する(初期値の設定)  
実際に照度計で測定した数値を表示します。



1500 lxに設定の場合

6 PiPit+セバAに向け『送信ボタン』を押す  
※100%点灯状態でないとPiPit+セバAは  
受信しません「無反応」。



- 正しく受信された場合、操作後、約2秒で「ビビー」と鳴ります。
- 設定エラーの場合「ビビビビ」と鳴り、LED赤が点灯します。自動ボタンで解除して1からやり直してください。



7 『項目ボタン』を押し「05」を  
選択する

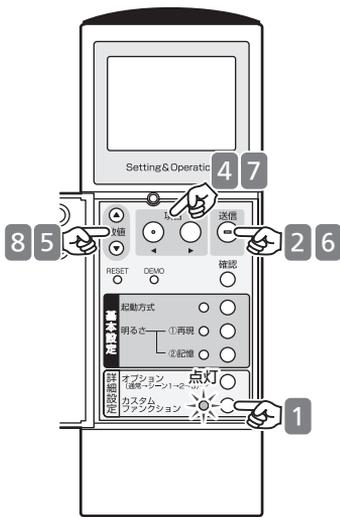
シーン1運転の場合は  
「06」を選択



8 『数値ボタン』で照度を調整する  
(目標照度値の設定)  
運転させたい明るさ(照度)を表示させます。

750 lxに設定の場合

PiPit+ハンディライコン

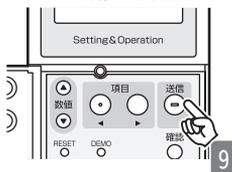


(フタを開けた状態)

●アドバイス  
照度計の数値以上には設定  
しないでください。  
設定した数値と実際使用時  
の数値とは異なる場合に  
あります。

## よくある質問 (前ページからのつづき)

(フタを開けた状態)



9

(フタを開けた状態)



10

9 PiPit+セパAに向け『送信ボタン』を押す



- 正しく受信された場合「ピー」と鳴ります。
- 設定エラーの場合「ピピピ」と鳴りLED赤が点灯します。自動ボタンで解除して7からやり直してください。



10 フタを閉じ、PiPit+セパAに向け『自動ボタン』を押す



「ピッ」と鳴りLED緑が消灯します。

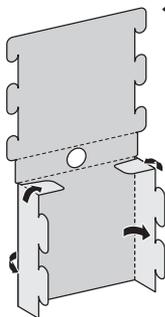


自動運転を開始します

## 赤外線遮光カバーの使いかた

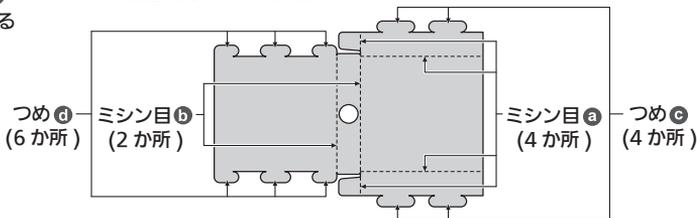
- PiPit+ ハンディライコンの赤外線送信範囲を絞って、器具個別の操作をしやすくします。

### 赤外線遮光カバーの組み立てかた

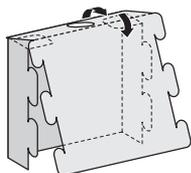


1 ミシン目 a  
4 か所を折る

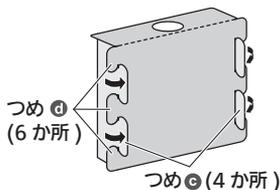
赤外線遮光カバー (同梱品)



2 ミシン目 b 2 か所を折る

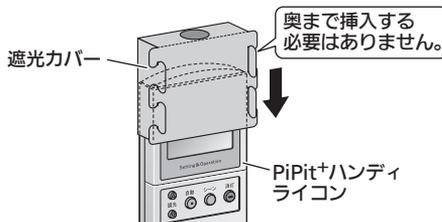


3 つめ c 4 か所を、つめ d 6 か所の間にはめこむ



### PiPit+ハンディライコンへの装着のしかた

組み立てた赤外線遮光カバーを PiPit+ハンディライコンに装着する



## お手入れについて

- 石けん水に浸した布をよく絞ってから拭いてください。
- シンナーやベンジンやアルコールなどの揮発性の溶剤、みがき粉は使用しないでください。変質・変色・傷みの原因となります。

## 困ったとき

### ■ ハンディライコンでPiPit+セバAに対して調光操作した場合のこんなとき

こんなとき	考えられる原因	対処方法
照明器具の明るさが変わらない	PiPit+セバAの電源が入っていない	PiPit+セバAの電源を入れてください。
	照明器具の電源が入っていない	照明器具の電源を入れてください。
	ペアリング設定ができていない	ペアリング設定を行ってください。
	ペアリングが解除されている	再度ペアリング設定を行ってください。
	PiPit+セバAからの電波が照明器具に届いていない	PiPit+セバAと照明器具の間に遮蔽物などがある場合は、遮蔽物の位置を変更してください。遮蔽物などがなく調光操作できない場合は、通信補助器を追加してください。
	デマンドロックがかかっている	P14を参考にデマンドロックをOFFにするか、デマンド接点をOFFにしてください。
	ハンディライコンの電池が消耗している	電池を交換してください。
	ハンディライコンの操作範囲外で操作している	P5の操作範囲内で操作してください。
設定した調光率にならない	デマンド接点がONになっている	設定した削減率がかかった調光率で点灯しています。デマンド接点をOFFにしてください。
調光操作した内容が勝手に解除される	PiPit+セバAの電源がOFF→ONされた(瞬時停電があった)	ハンディライコンからの調光操作はPiPit+セバAの電源が切れると解除されます。電源再投入後もう一度調光操作してください。
自動ボタンを押したのに通常運転にならない	外部調光信号やシーン1接点がONになっている	外部調光信号やシーン1接点をOFFにしてください。

### ■ ハンディライコンでPiPit+セバAに対して設定した場合のこんなとき

こんなとき	考えられる原因	対処方法
明るさ目標設定ができない(設定時にエラー音が鳴る)	PiPit+セバAの設置面(天井面)の照度が1000 lxを超えたり、15 lx下回っている	設置面が明るすぎるまたは暗すぎる場合、P10の「お好み設定」で調光率を変更し設定してください。また検知エリア内の反射率を変更することで対応することもできます。
P12～P13の運転内容を設定するときにエラー音が鳴る	PiPit+セバAに設定コマンドが最後まで送信できていない	「送信ボタン」を押してから数秒間PiPit+セバAに向けたままにしてください。(設定コマンドを送信完了するまで数秒かかります)
設定してもブザー音が何も鳴らない	設定するコマンド(画面)が間違っている	ハンディライコンの設定画面が正しいか取扱説明書をもう一度確認し、再度設定してください。

## ■ PiPit+セバAで明るさ制御中のこんなとき

こんなとき	考えられる原因	対処方法
照明器具が明るくなりすぎる	明るさ目標設定を外光が入る屋間に行った	再度外光の影響のない夜間などに明るさ目標設定を行ってください。
	設定した明るさ目標値が高すぎる	
	明るさ目標設定時に比べて検知エリア内の反射率が小さくなった	明るさセンサの汚れをやわらかい布でふき取ってください。
	明るさセンサの表面が汚れている	
照明器具が暗くなりすぎる	設定した明るさ目標値が低すぎる	再度外光の影響のない夜間などに明るさ目標設定を行ってください。
	明るさ目標設定時に比べて検知エリア内の反射率が大きくなった	
	太陽光や他の光源からの光が検知エリア内に入っている	正常な動作です。暗くなりすぎるのを防ぐ場合は、P11～P13を参考に調光範囲の下限值を変更してください。
PiPit+セバAが複数ある場合、照明器具の明るさに差がある	明るさ目標設定時に比べて、各PiPit+セバAの検知エリア内の反射率が変わっている	再度外光の影響のない夜間などに明るさ目標設定を行ってください。
	太陽光や他の光源からの光が検知エリア内に入っている	正常な動作です。
照明器具の明るさが外光量に応じて変化しない	通常運転またはシーン1運転で一定調光制御をおこなっている	明るさ制御を設定した通常運転またはシーン1運転で動作させてください。
	ハンディライコンからの調光操作をしている	
	外部調光信号入力が入っている	
照明器具が一瞬100%点灯する	瞬時停電があった	特に問題ありません。

## ■ ハンディライコンとPiPitシリーズ調光器具のみのこんなとき

こんなとき	考えられる原因	対処方法
PiPit+ハンディライコンで器具の明るさが変化しない	各種コントローラと器具との組み合わせで使用している	各種コントローラとの組み合わせでご使用の器具は、PiPit+ハンディライコンでは操作できません。工場出荷時に戻した後（P.15 参照）明るさ設定を行ってください。（P.18 参照）
	PiPit+ハンディライコンの通信範囲外から操作している	器具の真下から設定・操作を行ってください。
カスタムファンクションボタンで所定の画面番号が出てこない	電池ボックス内の切替スイッチが「AN」側になっている	切替スイッチを「A」側に切り替えてください。（P.4 参照）
周辺の照明器具も一緒に明るさが変化する	器具が高天井に取り付けられていたり密集して設置されている	PiPit+ハンディライコンを器具に近づけて操作してください。また、赤外線遮光カバーを使用してください。（P.22 参照）
電源を切る前の状態で器具が点灯しない	手動操作、シーン運転で使用している	器具を PiPit+ハンディライコンで手動操作、シーン運転した内容は記憶されません。「明るさ設定のしかた」（P.18）を参照のうえ、設定を行ってください。